

人間関係作りを柱にした教育実践（ソウル日本人学校での取り組み） —「たくましく心豊かに世界に生きる子ども」の育成を目指して—

前ソウル日本人学校 教諭

静岡県浜松市立北部中学校 教諭 河野 圭一郎

キーワード 在外教育施設、ソウル、人間関係作り、ソーシャルスキル、理科教育

赴任校の概要（2024年7月1日現在）

学校名・日本語：ソウル日本人学校

学校名・現地表記：서울 일본 학교

URL <http://www.sjs.or.kr/>

園児、児童、生徒数 幼稚部35名 小学部191名 中学部56名

1 はじめに

派遣時（2021年）コロナの影響もあったからか、「閉鎖的」と感じた日本人学校。在籍校であった浜松市立丸塚中学校では「心パワーアッププロジェクト」や「こころの日」といった心を耕す活動を継続的に取り入れている。それは現在も行われている。人間関係構築の際に起きるエラーやトラブルの原因、他人の立場や気持ちを理解し、生徒たちの今後の生活に必須であるコミュニケーションスキル、ソーシャルスキルの習得が目標のひとつである。これを軸にして、ソウル日本人学校の学校教育目標である「たくましく心豊かに世界に生きる子ども」の育成の達成を目指して、実践を進めてきた。

2 実践の内容

(1) 授業

① 役割分担

日本でもソウルでもよくやったのが、実験班の中での役割分担である。班長、準備片付け、記録、発表などの役割分担を生徒に担わせることで、個人の役割を全うしようとする。手を抜けば、実験がうまくいかない。他人のことを考えると、自分の仕事をやるしかないのだ。そうすることで、良い実験環境、人間関係が作られていく。



中2 水の電気分解

② 討論

理科の授業では、自分の考えや人の意見を聞いて、思考を深める取り組みをしてきた。ひとつの手法として「討論」がある。例えば、「遺伝子組み換えした商品」について意見を交わした。賛否で別れて、それぞれの考えをプレゼンテーションする「立論」である。続いて、「質疑」、それを受けて「反駁」、最後に「最終弁論」である。今回の実践では、消費者の立場で、生産者の立場で、売り手の立場で、と様々な視点から、遺伝

子組み換え技術について考えることができた。人の意見から学び、自分の考えを深める良い活動になり、人の助言によって自分の意見が磨かれていくと感じた生徒が多かった。

(2) 特別活動

① 学部での実践

ア ソウル太鼓

舞、篠笛、太鼓からなる演舞が伝統として10年以上引き継がれている。これは教師が何か教えるということは、ほとんどない。本当に生徒たち自身で引き継いできたものである。毎年少しずつ自分たちの学年の色を加えているが、本筋は変わっていない。絶えずここまで繋がってきたことには理由があると考え。人の思いを大切にする素地が、ここの生徒には備わっていると感じる。先輩が後輩に指導する際、どうしたら伝わりやすいか、理解してもらえるかを一生懸命に考え、実践し、悩み、前に進む姿には胸を打たれる。人間関係作りの素晴らしい機会が本校にはあると感じている。

イ 屋上弁当

毎週木曜日、中学部約60名で昼食を食べるようにした。学年・性別を混ぜて、絆を深めることが目的である。コロナによる制限も緩和され、何気ないおしゃべりをしながら、良い時間を過ごせている。

② 学校行事

ア なかよし集会

本校では、年度初めに「なかよし班」を作っている。幼・小・中からなる本校では、交流活動が盛んだ。この班でゲームをしたり、弁当を食べたりする。1学期は中学部生徒会、2学期は小学部児童会が運営する「なかよし集会」がある。

幼稚部の園児は、兄弟が幼・小・中学部にいたら同じ班にしたり、小学校低学年の児童は、人間関係で班を調節したり、工夫もしている。ここで、中学部はリーダーである。年齢の異なる相手とどのようにかかわるか、上手いかわなくてもいい。そこから、多くのことを学び、次に生かそうとしている。

イ 運動会

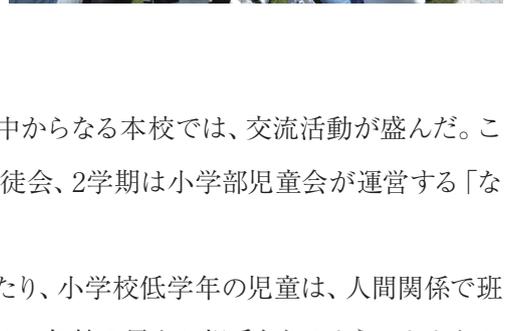
運動会では、ソーラン節と創作ダンスの披露があった。リーダーが中心となって、練習方法の工夫、振り付けや隊形移動についてなど、生徒同士でよく話し合う場面を見てきた。ここでも、私は全体のフォローに回った。うまく進まない時には助言をする程度



中3「遺伝子組換え技術」に関する討論。
校長にも意見をもらった



ソウル太鼓披露



中学部 集合写真

である。行事の成功に向かって意見を出し合う場面も、人間関係構築や自己理解、他者理解の絶好の場となっている。

ウ 駅伝大会

保健体育科の長距離学習の成果披露の場として駅伝大会を実施している。ここでは、学年の枠を超えて、チームを編成し、大会に臨む。練習時だけでなく、休み時間でも声をかけ合う姿が見られた。チーム名や走順も自分たちで決めていく。交流の必然性が生じてくるため、お互いのことを理解するきっかけになる。当日は、もちろん前向きな声が飛び交う。スタート前にはチームで士気を高め、レース中は全力で応援する。終わった時には互いの健闘を称える。そんな姿から、行事をきっかけに良好な人間関係が築けていく様子が見られた。昨年度から、学校の近くの公園にて実施している。多くの声援もあって、頑張る生徒の姿がまぶしい。



仲間の思いを繋げ!

③ 現地校や異年齢集団との交流

ア 善一中学校 (선일중학교) との交流活動

今年度も文化祭に参加させてもらった。日本人学校も出店して、大盛況だった。けん玉、書道、割り箸鉄砲、日本の昔遊びのブースを運営した。また、ステージではソーラン節を披露し、こちらも大変盛り上がった。韓国の給食には、もちろんキムチがつく。

さらに、希望生徒による1日交換留学が実施できた。海外にいるからこそできる異文化交流である。日韓関係がこれからも良好であることを願う。



一緒に授業も受ける

イ インターナショナルスクールとの交流

ソウル日本人学校の隣には、ドワイトインターナショナルスクールという学校がある。IB (国際バカロレア) プログラムを実施している学校で、優秀な学生が集まる。英語に苦戦しながらも、言葉や文化の壁を越えて、取り組むことができた。



工作の授業

ウ 小学部や幼稚部との交流

本校は、幼稚部から中学部までが同じ校舎にある。前述の「なかよし集会」に加えて、学年の枠を超えて、一緒に活動することもある。中学生にとって、年齢が下の児童、園児との交流は大変有意義であると考え。その成果として、相手の気持ちを感じ取ったり、相手のことを考えて次の言動を選んだりできるようになった。



一緒に豆まき

3 まとめ

海外に住む子どもたちに日本と同等、それ以上の教育を行うために、そして、世界や日本の未来を担う人材育成

のために3年間教育活動を実践してきた。

「閉鎖的」そんな印象をもった1年目。社会に出た時に必須能力の一つ、コミュニケーションスキル。様々な活動を通じて行ってきた「人間関係作り」は、生徒のコミュニケーションスキル向上に間違いなくつながっている。人間関係構築の際に起きるエラーやトラブルの原因、他人の立場や気持ちを理解できる生徒の育成の一助となる。今後も教育実践を継続していきたいと思う。

最後に、これからも韓国、そしてソウル日本人学校の発展を願うばかりである。これを読んだ方々が外国文化や日韓関係などに関心を持っていただけたら嬉しく思う。カムサハムニダ。